



## アクティブ/アクティブでのコネクタ

- [コネクタのアクティブ/アクティブ](#) (1 ページ)
- [機能制限](#) (1 ページ)
- [コネクタアクティブ/アクティブと Cisco CMX 高可用性の比較](#) (3 ページ)
- [アクティブ/アクティブでのコネクタの設定](#) (3 ページ)
- [アクティブ/アクティブでのコネクタの設定 \(有線\)](#) (7 ページ)

## コネクタのアクティブ/アクティブ

アクティブ/アクティブモードで2つの Cisco DNA Spaces : コネクタ をペアにして、Cisco DNA Spaces へのデータ中断のないフローを有効にすることができます。

1. Cisco DNA Spaces からトークンを取得し、2つの異なる コネクタ でトークンを設定します。それぞれの コネクタ に一意の IP アドレスが必要です。
2. 両方の コネクタ が Cisco DNA Spaces から設定を受信します。
3. その後 コネクタ は、デバイスに接続して Cisco DNA Spaces にデータを返すことができます。
4. Cisco DNA Spaces が冗長データを管理します。
5. 一方の コネクタ がダウンした場合、もう一方の コネクタ が引き続きデータを送信します。

## 機能制限

- Cisco DNA Spaces ダッシュボードでは、2つの コネクタ をアクティブ/アクティブペアにするための設定は必要ありません。
- 両方の コネクタ がすべてのコントローラに接続し、Cisco DNA Spaces にトラフィックを送信します。そのため、コントローラ から Cisco DNA Spaces へのトラフィックが増加します。

- アクティブ/アクティブ コネクタ ペアにするには、2つのコネクタでOVAバージョン2.3以降を実行する必要があります。
- FastLocate、HyperLocation、およびIoTサービスのフェールオーバーサポートはありません。フェールオーバー後にこれらのサービスを再プロビジョニングします。
- CSCvv38762の場合、IoTサービスのフェールオーバーサポートはありません。フェールオーバー後にこれらのサービスを再プロビジョニングします。
- コネクタ アクティブ/アクティブ機能のモニタリングはサポートされていません。
- CSCvv34216の場合、コネクタ アクティブ/アクティブペアの一方のコネクタのみが [Controller Channel] を管理し、他方のコネクタが [AP Channel] を管理します。

図 1: コネクタは [Controller Channel] のみを管理します。 [AP Channel] の統計情報はゼロになります。

The screenshot shows the configuration and status of the falcon-ha2 connector. The Controller Channel is active, showing 58 messages/second. The Access Point Channel shows zero activity.

Channel	Connected At	Status	Outgoing message rate	TDL Incoming Msg Rate	TDL Incoming Msg Count	IP Address	Connected At	Msg Rate/Second	Status
Cloud Control Channel	Wed Aug 19 2020 19:38:41 GMT-07:00 (Pacific Daylight Time)	Connected		0.00 events/second	45	172.20.239.66	Wed, Aug 19th, 2020	58	ACTIVE
Cloud Data Channel	Wed Aug 19 2020 19:38:41 GMT-07:00 (Pacific Daylight Time)	Connected	58 events/second						
Controller Channel		Connected		0.00 events/second	0	172.20.239.66	Wed, Aug 19th, 2020	58	ACTIVE
Access Point Channel		Connected		0 events/second	0				

図 2: コネクタは [AP Channel] のみを管理します。 [Controller Channel] の統計情報はゼロになります。

The screenshot shows the configuration and status of the falcon-ha1 connector. The Access Point Channel is active, showing 195.81 messages/second. The Controller Channel shows zero activity.

Channel	Connected At	Status	Outgoing message rate	TDL Incoming Msg Rate	TDL Incoming Msg Count	IP Address	Connected At	Msg Rate/Second	Status
Cloud Control Channel	Wed Aug 19 2020 19:40:33 GMT-07:00 (Pacific Daylight Time)	Connected		0.00 events/second	0	172.20.239.66	Wed, Aug 19th, 2020	61	ACTIVE
Cloud Data Channel	Wed Aug 19 2020 19:40:35 GMT-07:00 (Pacific Daylight Time)	Connected	257 events/second						
Controller Channel		Connected		0.00 events/second	0	172.20.239.66	Wed, Aug 19th, 2020	61	ACTIVE
Access Point Channel		Connected		195.81 events/second	0				

# コネクタアクティブ/アクティブと Cisco CMX 高可用性の比較

コネクタアクティブ/アクティブ機能は、従来の高可用性に類似しています。ただし、仮想 IP アドレス、プライマリ、セカンダリなどの高可用性の概念は、この機能には実装されていません。次に、コネクタアクティブ/アクティブ機能と Cisco CMX の高可用性機能の比較を示します。

表 1: コネクタアクティブ/アクティブ (高可用性) モデル

	コネクタアクティブ/アクティブ IoT サービスアプリケーション、アプリケーションの検出と位置特定	Cisco CMX レイヤ 2 VIP 高可用性
IP アドレッシング	両方のコネクタに一意の IP アドレスが設定されます。	2 つの Cisco CMX デバイスが単一の IP アドレスで設定されます。
動作状態	両方のコネクタがアクティブ状態に設定されます。	1 つの Cisco CMX はホットプライマリで、もう 1 つはコールドスタンバイです。
フェールオーバー前のデータ	両方のコネクタに同じデータセットがあり、Cisco DNA Spaces がデータ冗長性の管理を担当します。	ホットプライマリとコールドスタンバイの両方が同じデータセットを保持します。
フェールオーバーのサポート	障害が発生した場合は、FastLocate、HyperLocation、および IoT サービスを再プロビジョニングする必要があります。	ホットプライマリに障害が発生すると、コールドスタンバイがシームレスに引き継ぎます。
バージョン制限	コネクタアクティブ/アクティブペアには、2.3 以降の同じ OVA バージョンが必要です。	高可用性を実現するため、Cisco CMX と同じバージョンを推奨します。

## アクティブ/アクティブでのコネクタの設定

このタスクでは、2 つのコネクタをアクティブ/アクティブとして設定する方法を示します。

## 始める前に

OVA バージョン 2.3 以降の 2 つの異なる Cisco DNA Spaces : コネクタ をインストールします。それぞれの コネクタ に一意の IP アドレスを設定します。

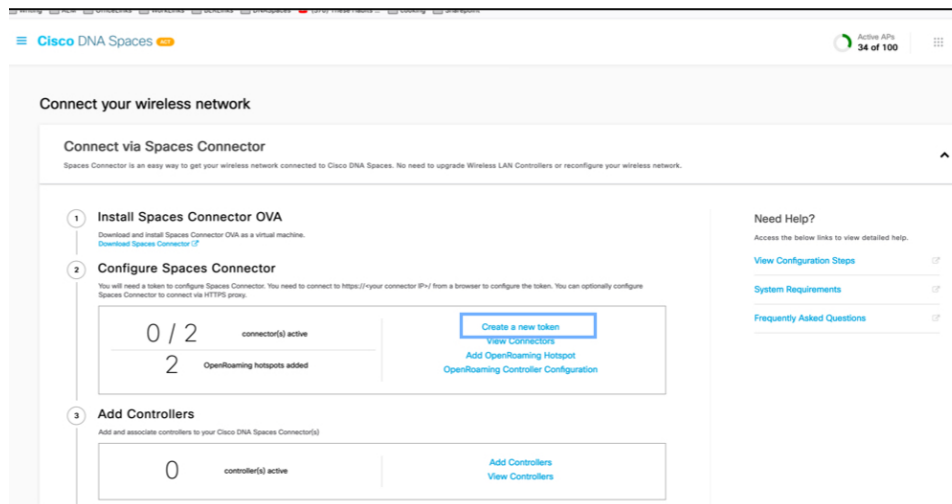
## 手順の概要

1. [Cisco DNA Spaces] > [Setup] > [Wireless Networks] にログインし、[Configure Spaces Connector] エリアで [Create a new token] をクリックします。
2. コネクタ の名前を入力し、[Generate Token] をクリックします。表示されたトークンをコピーし、後で参照できるように保存します。
3. 最初の コネクタ にログインし、保存されたトークンを設定します。
4. 2 番目の コネクタ にログインし、保存されたトークンを設定します。
5. それぞれの コネクタ で、テナント ID の値が同じであることを確認します。
6. Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、両方の コネクタ IP アドレスを確認します。
7. それぞれの コネクタ で、追加されたすべての コントローラ が存在することを確認します。
8. コントローラ CLI で、すべての コネクタ が NMSP 状態であることを確認します。

## 手順の詳細

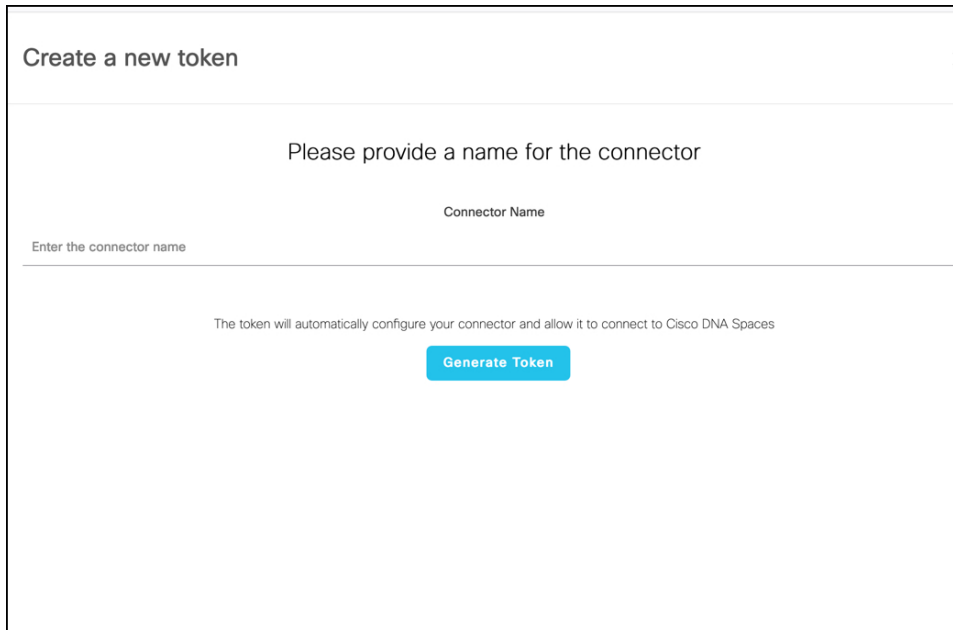
**ステップ 1** [Cisco DNA Spaces] > [Setup] > [Wireless Networks] にログインし、[Configure Spaces Connector] エリアで [Create a new token] をクリックします。

図 3: 新しいトークンの作成



**ステップ 2** コネクタ の名前を入力し、[Generate Token] をクリックします。表示されたトークンをコピーし、後で参照できるように保存します。

図 4: Connector Name



Create a new token

Please provide a name for the connector

Connector Name

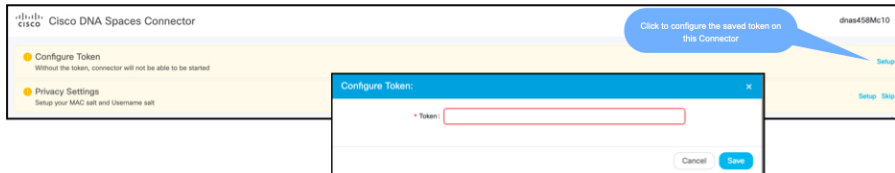
Enter the connector name

The token will automatically configure your connector and allow it to connect to Cisco DNA Spaces

Generate Token

ステップ 3 最初の コネクタ にログインし、保存されたトークンを設定します。

図 5: Connector Name



Configure Token

Without the token, connector will not be able to be started

Privacy Settings

Setup your MAC salt and Username salt

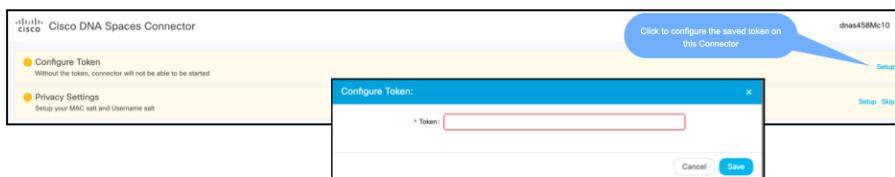
Click to configure the saved token on this Connector

Token

Cancel Save

ステップ 4 2 番目の コネクタ にログインし、保存されたトークンを設定します。

図 6: コネクタ Name



Configure Token

Without the token, connector will not be able to be started

Privacy Settings

Setup your MAC salt and Username salt

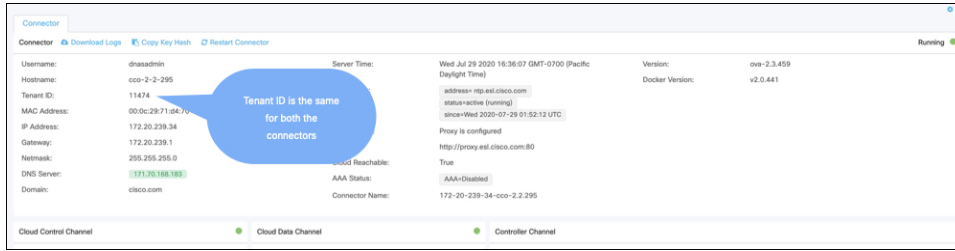
Click to configure the saved token on this Connector

Token

Cancel Save

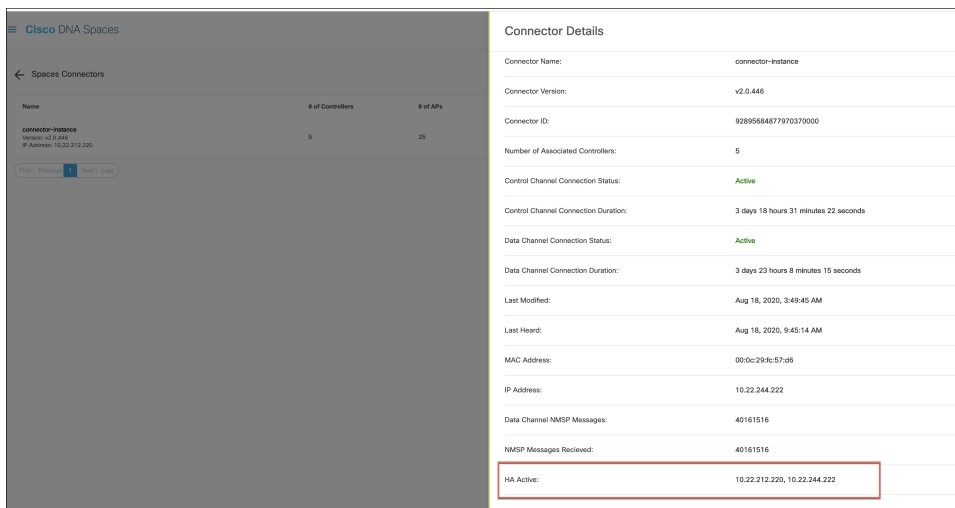
ステップ 5 それぞれの コネクタ で、テナント ID の値が同じであることを確認します。

図 7: コネクタ



ステップ 6 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、両方の コネクタ IPアドレスを確認します。

図 8: Cisco DNA Spaces ダッシュボード



ステップ 7 それぞれの コネクタ で、追加されたすべての コントローラ が存在することを確認します。

図 9: コネクタ : [Controller Channel] エリア

Controller Channel			
TDL Incoming Msg Rate	0.00 events/second		
TDL Incoming Msg Count	281		
IP Address	Connected At	Msg Rate/Second	Status
172.20.239.41	Wed, Jul 29th, 2020	29	ACTIVE

ステップ 8 コントローラ CLI で、すべての コネクタ が NMSP 状態であることを確認します。

図 10: コントローラ コマンドの出力

```
show nmosp status
```

```
NMSP Status
```

```
-----
```

DNA Spaces/CMX Rx Data	IP Address Transport	Active	Tx Echo Resp	Rx Echo Req	Tx Data	
10.x.212.xxx TLS		Inactive	13	13	161	6
10.x.212.xxx TLS		Inactive	0	0	17	6
10.x.212.xxx TLS		Active	45070	45070	1378446	574
10.x.244.xx TLS		Inactive	7	7	79	6
10.x.244.xx TLS		Active	56111	56111	1714241	286
10.x.244.xx TLS		Inactive	7	7	104	6
10.x.244.xxx TLS		Active	23056	23056	683908	298

## アクティブ/アクティブでのコネクタの設定（有線）

このタスクでは、2つのコネクタをアクティブ/アクティブとして設定する方法を示します。

### 始める前に

OVAバージョン2.3以降の2つの異なるCisco DNA Spaces：コネクタをインストールします。それぞれのコネクタに一意的IPアドレスを設定します。

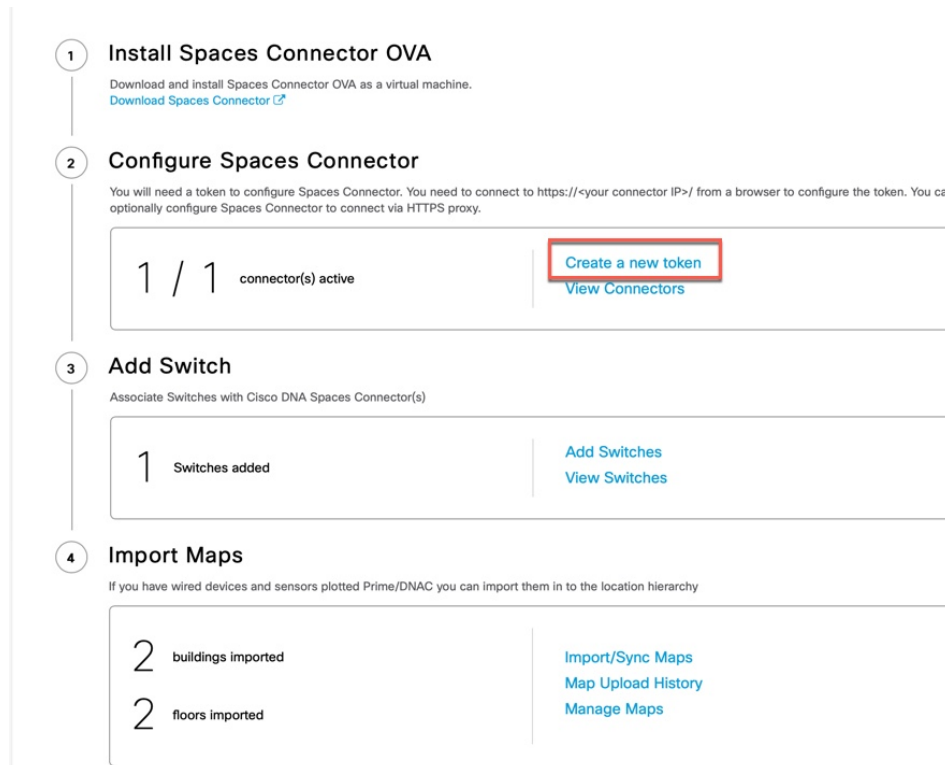
### 手順の概要

1. [Cisco DNA Spaces] > [Setup] > [Wired Networks] にログインし、[Configure Spaces Connector] エリアで [Create a new token] をクリックします。
2. コネクタの名前を入力し、[Generate Token] をクリックします。表示されたトークンをコピーし、後で参照できるように保存します。
3. 最初のコネクタにログインし、保存されたトークンを設定します。
4. 2番目のコネクタにログインし、保存されたトークンを設定します。
5. それぞれのコネクタで、テナントIDの値が同じであることを確認します。
6. Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、両方のコネクタIPアドレスを確認します。
7. それぞれのコネクタで、追加されたすべてのコネクタが存在することを確認します。

### 手順の詳細

**ステップ 1** [Cisco DNA Spaces] > [Setup] > [Wired Networks] にログインし、[Configure Spaces Connector] エリアで [Create a new token] をクリックします。

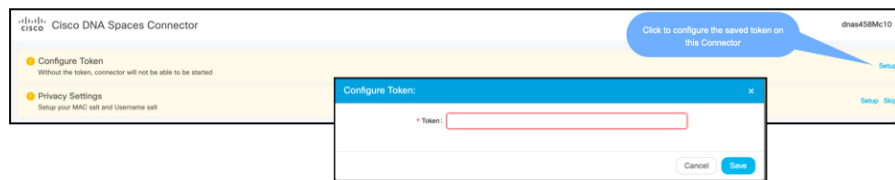
図 11:新しいトークンの作成



**ステップ 2** コネクタの名前を入力し、[Generate Token]をクリックします。表示されたトークンをコピーし、後で参照できるように保存します。

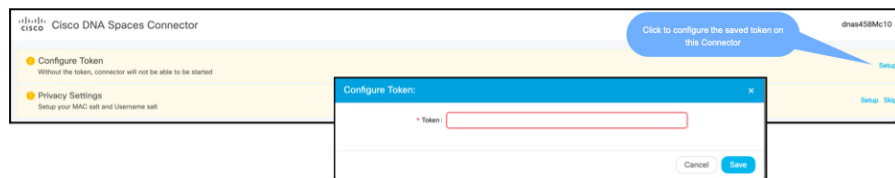
**ステップ 3** 最初の コネクタ にログインし、保存されたトークンを設定します。

図 12: Connector Name



**ステップ 4** 2 番目の コネクタ にログインし、保存されたトークンを設定します。

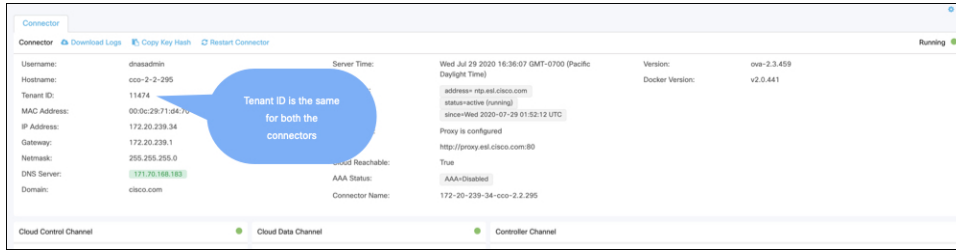
図 13:コネクタ Name



**ステップ 5** それぞれの コネクタ で、テナント ID の値が同じであることを確認します。

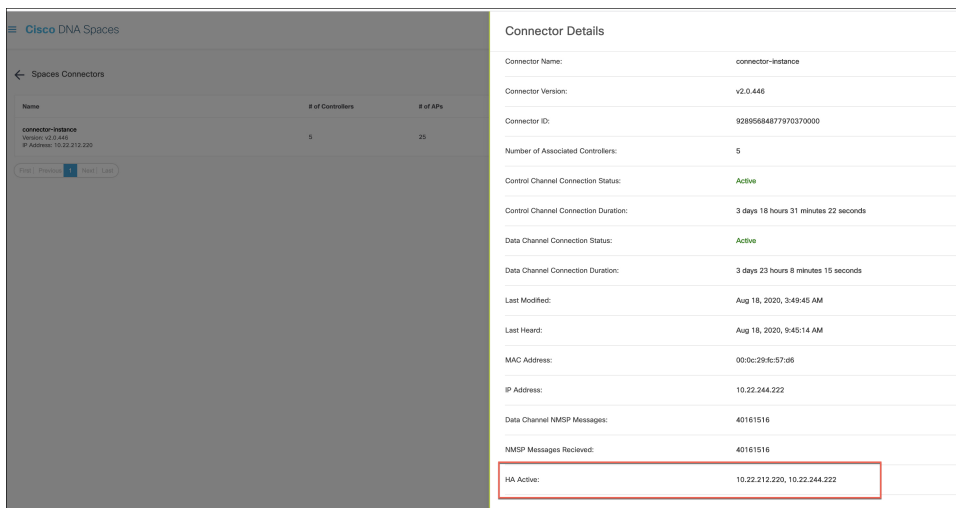


図 14: コネクタ



ステップ 6 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、両方の コネクタ IPアドレスを確認します。

図 15: Cisco DNA Spaces ダッシュボード



ステップ 7 それぞれの コネクタ で、追加されたすべての コネクタ が存在することを確認します。

図 16: コネクタ : [Controller Channel] エリア

Controller Channel			
TDL Incoming Msg Rate	0.00 events/second		
TDL Incoming Msg Count	281		
IP Address ▾	Connected At ▾	Msg Rate/Second ▾	Status ▾
172.20.239.41	Wed, Jul 29th, 2020	29	ACTIVE

